

発刊の言葉

この研究報告を發刊し得るまでに本校が育つたのは洵にうれしいことであります。

開校式を挙げましたのが昭和22年9月、それからはや三箇年が過ぎました。職員一同は生徒の教育と施設の完成に日頃全力を傾けて参りました。

教員の教員たり得る面目は常に學術の研鑽に精進し、各自がその専門分野に於て尖端に行くことにあると信じます。私共はこの教育者たるの本分を遂行しようと発足にあたり深く誓つたのであります。

しかし、大戦の余波はいまだに鎮まらず、学校の内外にも、個人生活、公私の両面にも加わりまする圧力は、この理想冀求への脅威でありました。さいわいにたゆまぬ努力と忍耐、調和ある勇氣と協力とは、よくこれらの万難に打ち克ち、日々の授業と刻々の研鑽とを併せ完ういたしました。この三年間の結果の一部がここに集録する研究成績の報告書であります。

これらは今日の我國學界を望見しましても決して學術的に香りの高いものであり、記録として残すに足り得るものであるとは自らも信じませぬ。しかし私共にとりましては、草創三箇年の草卒の間に辛じて成し遂げ得た汗の記念物でありますので敢て紙に印する所以であります。がさらに他面には學界諸賢の御叱正を得て私共の向うべき道を明にするとも、學術に實業に同愛同敬の諸士に多少なりとも何等かの寄与をなし得るものがあれば望外の幸と存じたからでもあります。

この報告は今後も号を重ねたいと思います。第一号を刊行するに当りまして私共の研究がより廣くより高くかつより深い記録として残し得るものへの成長發展を願いたすものであります。

昭和25年7月

島根縣立農林専門學校長 竹崎嘉徳